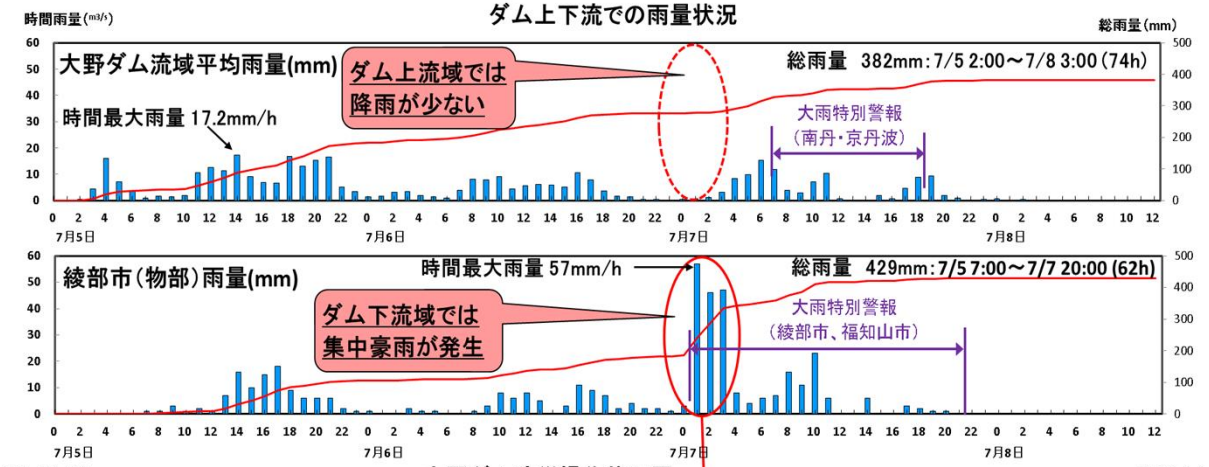
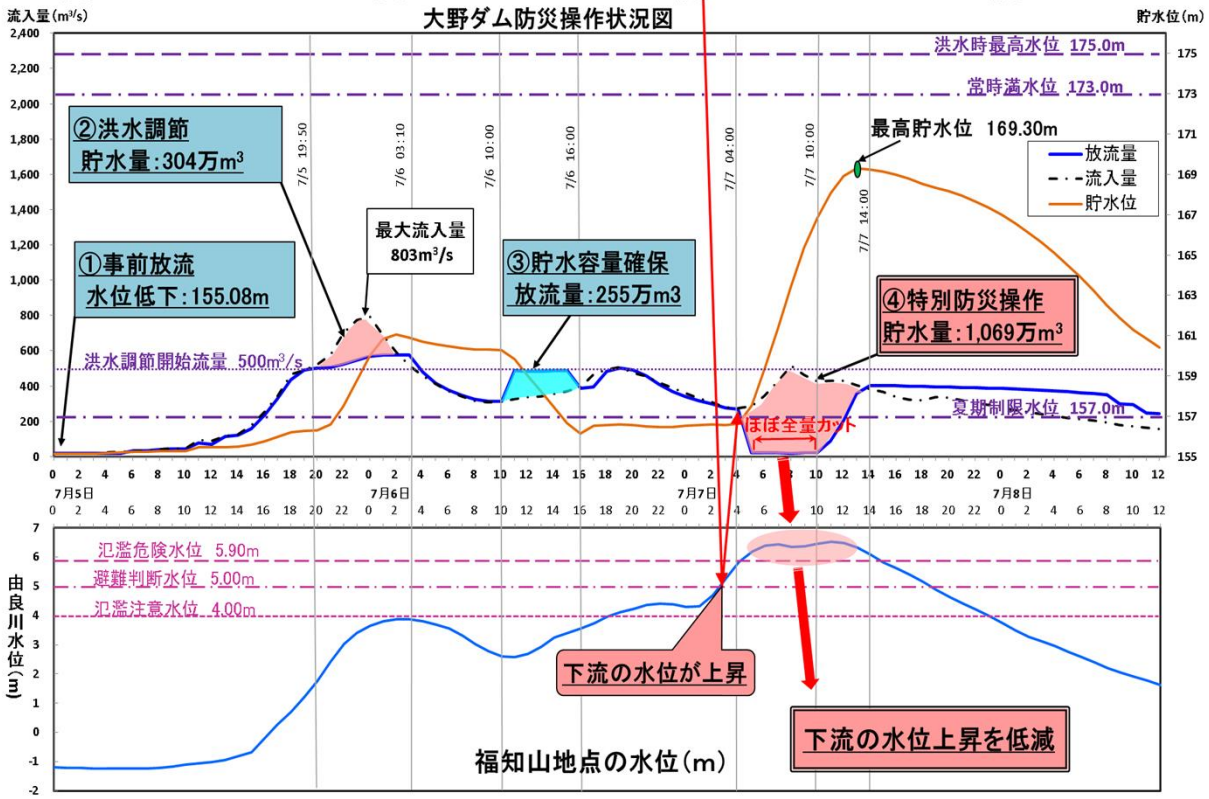
京都府　平成30年7月豪雨に対して、大野ダムが効果を発揮

■ 平成30年7月豪雨で、府としては2度目の大雨特別警報が発表。また、降雨が74時間続くなど記録的な大雨となり、由良川沿川では福知山市や舞鶴市等で浸水被害が発生しました。
■ 上流の大野ダムでは、特別防災操作の実施により、下流最高水位の低減に貢献しました。

放流時の状況

ダム湖の状況：貯水時(7月6日時点)

ダム湖の状況：平常時

＜今回の主な大野ダム操作＞
① 洪水前に事前放流を行い貯水容量確保（夏期制限水位 157.00m を下回る155.08mで待機）
② 第1波の降雨に対し通常操作の洪水調節（貯水量：304万m³（京セラドーム大阪2.5杯分））
③ 第2波の降雨に備え降雨状況と下流水位を監視しながら放流し貯水容量確保
④ 第2波の降雨に対し特別防災操作を緊急実施。大野ダム流入洪水をほぼ全量カット（ピーク時500m³/s ）（貯水量：1,069万m3（京セラドーム大阪9杯分））

※「特別防災操作」とは、下流河道の整備状況を勘案し防災操作実施後の貯水容量に余裕があると判断した場合には、ダムの洪水調節容量をより効果的・効率的に活用し、貯水量を増やして放流量を低減させることで下流の被害を軽減する操作のことです。